

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月9日
函館市立五稜郭中学校

1 本年度の重点教育目標

自立に向けた基礎・基本の定着（キャリア教育の充実）

2 本年度の取組の重点

①「主体的・対話的で深い学び」の実現 ③「豊かな人間性」の育成 ⑤「社会に貢献する心」の育成 ⑦「やる気に満ちた教職員組織」の構築	②「自己指導能力」の育成 ④「健康でたくましい体」の育成 ⑥「特別支援教育」の充実 ⑧「地域とともにある学校」の構築
--	---

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①「主体的・対話的で深い学び」の実現	学習規律の徹底を図ることができたか。	b	教職員間で共通理解、共通実践し、指導の徹底を図る。	a	A	
	必要な資質・能力を育む授業改善を図ることができたか。	b	問題解決的な学習の実践を図る。	a	A	
	言語活動や体験活動、ICT等を活用した学習活動の充実を図ることができたか。	b	ICTの積極的かつ組織的な活用を図る。	a	A	
②「自己指導能力」の育成	全教師が、共通理解・協働体制に基づいて適切に指導・援助することができたか。	b	生活スローガン「一五一得」の実現に向けた取組の充実を図る。	a	A	
	生徒理解のための努力がなされ、日常生活の中で相談活動を充実させることができたか。	a		a	A	
③「豊かな人間性」の育成	校内体制の確立と「道徳科」授業の充実を図ることができたか。	a		a	A	
	いじめ防止基本方針に基づいた取組の充実を図ることができたか。	a		a	A	
	すべての生徒の学びを保障することができたか。	a		a	A	
④「健康でたくましい体」の育成	生徒主体の体育行事の推進を図ることができたか。	a		a	A	
	規則正しい生活習慣に基づいた健康教育の増進を行うことができたか。	b	生活習慣改善に向けた取組を家庭と連携して行う。	a	A	
⑤「社会に貢献する心」の育成	地域社会（企業・町会・異種校等）との連携を図ることができたか。	b	職場体験学習を通して、社会に貢献する意欲や意識を育む。	a	A	コロナ禍での取組の工夫（社会人講話など Web の活用など）
	生徒主体の奉仕活動の充実を図ることができたか。	b	ボランティア活動を通して、社会貢献の基本的行動を学ぶ。	a	A	・市、町内会の活動への参加の呼びかけや体験談を発表する場の設定
⑥「特別支援教育」の充実	校内体制の確立、各種研修の推進や関係機関との連携を図ることができたか。	a		a	A	・特別支援学級の取組の情報発信
⑦「やる気に満ちた教職員組織」の構築	教育公務員の使命の具現である服務の遵守の徹底を図ることができたか。	a		a	A	
	学校における働き方改革のさらなる推進を図ることができたか。	a		a	A	
⑧「地域とともにある学校」の構築	家庭・地域と一体となった学校運営を推進することができたか。	b	学校運営協議会の取組を学校経営に効果的に生かす。	a	A	
	積極的な情報発信、学校評価の充実を図ることができたか。	a		a	A	・学校だよりや安心メール以外の方法の検討

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。